

令和3年11月（2021年）No.671

来年の発表会を憂う 寝屋川の映像発表会に想う

会長 合原一夫

去る10月30日(土)寝屋川市駅前の立派なホールで行われた寝屋川文化芸術祭の一環とした「市民映像作品発表会」に行ってきましたが、3時に始まって4時40分に終わる、という慌ただしさだった。内容を拝見すると14作品あり、司会が簡素化されていたということがあったにしろ、14作品が1時間40分で終了という映写会は初めての経験であった。作品の長さは3分から一番長くて10分、平均6分50秒の長さであった。近頃はネットで流す、というのが当たり前で、だんだん短くなってきているのが普通の状態かも知れないが…。

振り返って我がOMCの未来の発表会の事を考えると、出品者はおそらく10名、うまく皆頑張ってくれても14名位であろう。出品者が皆、7～10分程度の作品だと映写会も1時に初めて3時か3時半には終了するが内容が良ければ観客の皆様には満足して帰って頂けると思う。問題は作品の「質」である。

これから来年の発表会の質向上を目指して、会長の私が先頭に立って会員諸氏に向き合い、ともに考え、少しでもレベルアップにつなげる行動を起こす。第2例会の午前中に勉強会を開くことや、自宅に迎えて1～3人グループで個別作品の勉強会を開いてもよい。来訪者は歓迎する。ご希望者には作者の自宅に伺ってパソコンの前で議論を深めてもよい。私は特に編集以前の作品の構成、狙い、脚本を重視する立場である。題名を付けるにも10通り位は考えている。とにかく、良い作品を目指し、発表会は短時間でも感動を与えるようなレベルの高い発表会をめざしたい。これが会長としての私の思いである。



1 1月例会のお知らせ

- 第2例会；第3木曜日18日 13時より難波市民学習センターにて開催
- 通常例会；第4土曜日27日 18時より お待ちしています。
- 元OMC会員

● 吉村久雄氏死去を悼む

80年代から映像をやっておられた方をご存知の吉村久雄さんが亡くなりましたことをこのほど知った。川畑会長、小倉会長時代に OMC 会員として活躍されていた方で、1977 年の発表会で「蝶の世界」、「トンボの世界」等、ドキュメンタリー映画として重厚な作品をよくモノにされていたことは今だに心に残る。お仕事は電気屋さんで温厚なお人柄であった。発表会にはよくご来場頂いていたが、令和元年合原、関 2 人のリサイタルにご出席されたのが最後であった。惜しい人が無くなりましたものである。ご冥福をお祈りします。

(合原)

◇ 大阪アマチュア映像祭 参加希望者定員を上まわる

11 月 14 日 (日) に行われる大阪アマチュア映像祭は、中央図書館側よりコロナ対策として入場制限 80 名と指示された為、事前申し込み制としたところ、定員をはるかに超える参加申し込みがあった。主催者としては、来場希望者は全員歓迎したいところだが、抽選の結果、止む無くお断りの通知を出す人が続出した。まことに断腸の思いである。連盟加入の会員さんは、スタッフ扱いとし、ロビーでのテレビ鑑賞の外、欠席で空席があった場合は会場に入ってもらおうようにした。乞うご協力である。

ワクチン接種もかなり行き渡り、感染者数も激減したこともあり、次回の 3 月 27 日に予定している「第 40 回日本を縦断する映像発表会」の時は正常に戻っていることを願うばかりである。

10 月例会レポート

10 月例会は第 4 土曜日 23 日 18 時より難波市民学習センターにて開催。このところ急に気温が下がり、服装も冬に近い姿に一変した。今月は久しぶりに、OMC を退会されている前田茂夫さんがお元気な姿で例会に参加された。

■ **運営担当**：司会 合原、書記 紙本、映写 岡本、坪井 メモリー記録・YouTube 関係 江村、
受付・照明 宮崎、森下の各氏

■ **出席者**：江村、岡本、紙本、合原、進藤、高瀬、坪井、中川、森下、宮崎、山本、前田の 12 氏
上映作品 (今月の書記は紙本氏)

1. 湖西にも巨木はあった

紙本 勝 9分50秒

(作者コメント)

高島の若宮神社の椎を訪ねたら伐採されたとのことで、祭りの準備をしている方のお話を伺い、2代目が育っているとのこと。バスに一時間もあるところを車で駅まで送って頂き、森神社のタブ・阿志都神社のスタジイを予定通り撮影できました。



スタジイ
(県)天然記念物

2. 思い出の園 (その)

合原一夫 9分50秒

(作者コメント)

緑地公園へ久方ぶりに訪ね、民族博物館の古い民家を見つめながら、かつて現地を訪ねたことを改めて思い出す。初冬の休日、公園の散策を楽しんだ一日であった。



(書記コメント)

移設の民家で白川郷の夫婦旅行を、歌舞伎小屋で撮影会での肥土山の農村歌舞伎を撮影したこと、野外音楽堂でお孫さん出演の音楽発表会を、それぞれの撮影を楽しんだことが思い出され、懐かしく 有意義な一日であった様子がよく伺えました。

3. 雨のパリ

山本正夢 7分00秒

(作者コメント)

ヨーロッパ旅行中飛行機乗り継ぎに時間があったのでパリ市内を散歩しました。

(書記コメント)

飛行機の乗り継ぎ時間を利用してパリを散策とはなんとも贅沢な。セーヌ河を走る水上バスで観光、ルーブル博物館・凱旋門・ノートルダム大聖堂、それにエッフェル塔と雨は関係ない様でした。



4. 宇野港

江村一郎 7分00秒

(作者コメント)

宇野港は国鉄時代に本州と四国を結ぶ連絡港としての役割を担ってきた。瀬戸大橋ができて宇高連絡船が廃止されたあとは観光港として整備されている。私も宇高連絡船は幾度も利用したが宇野は通過駅でしかなかった。今回、瀬戸大橋が通行止めとなった為因らずも宇野港に寄ることができた、かつての名残はほぼ消え去ったが岸壁の一部遺構が残され往時の姿を偲ぶことができた。



(書記コメント)

宇野港の現況と昔の様子がよく判る。漂流物を使ったチヌの造形物が面白い。宇高連絡船の紫雲丸が衝突して沈没した大事件の様子が生々しく、思い出される。橋が不通でよい機会を得られたものです

5. 永源寺 夜景散策

中川良三 6分48秒

(作者コメント)

2018年にバスツアーで行った紅葉狩りのビデオ。あいにくの雨でレンズに雨粒が付着し乱反射を起こしていますが、撮影した時には気が付かず編集時点で判りました。これもまた、雨の中で撮った効果かも。



(書記コメント)

紅葉の名所永源寺のライトアップに浮かび上がる幻想的な夜景。あいにくの雨だったようですが、昼間とはまた違った雰囲気的情景を見せてもらいました。撮影では気が付かなかったことが編集で気づくことはたまにありますが変わった模様でした。

6. 柳田国男の郷里 福崎をたずねて

進藤信男 10分00秒

(作者コメント)

福崎へは、昨年所用で3度訪れた。二度はスチールカメラ、一度は一眼カメラ持参だった。四度目の今回は撮影目的の応訪となった。コロナ禍の中であったが、民俗学の祖柳田国男の功績をもとにした町興しが行われていた。「願わくば これを語りて平地人を戦慄せしめよ」の言葉が民話の神髄であった。平地人とは、都会の人という意味だ。柳田国男自身、当時「なぜ農村は貧しいのか」との疑問から民俗学を志すことになったといわれます。民族学は、まさに開拓であり学問としての確立であった。そして、岩手県遠野の人たちと接し始めたのは明治42年はじめのことだった。遠野に伝わっていた習俗や伝説、怪異な話はその土地の歴史そのものだった。兵庫県福崎では、遠野のようにその話を語る「語り部」はいない。むしろ、鉾山を背景に、銀の馬車道跡があるように、時代をリードしてきた土地であった。しかし、今回取材できた「カップ物語」のような話は日本各地に残されているのです。



(書記コメント)

私も銀の馬車道の取材のとき、柳田国男の生家やカップの池を見ましたが、その翌年に妖怪のベンチが設

置かれたようでその多さと、進藤さんが妖怪を28ヶ所も根気よく撮られているのに驚きです。

又、妖怪も色々いるものだと感心させられます。

7. 翼をください

岡本至弘 14分00秒

(作者コメント)

約20年前に、OMCの会員であった田中さんが、自家用飛行機をもっておられて一度乗せてほしいと申し上げていたところ、2月のある日の朝、突然電話があり飛行機に乗せてやるから、八尾空港へおいでのことでしたので、ご厚意にあまえて搭乗させていただきました。その時の映像です。長野へ行こうとのことでしたが、天候が悪いので、急遽、高知へいくことになりました。田中パイロットとその友人のパイロットと私の3名の搭乗でした。不安と嬉しさのわくわくとドキドキしたことを覚えています。西日本最高峰の標高1,982m、冠雪の石鎚山を下界に、上空からの素晴らしい景色を堪能できました。高知空港に着陸したあと、再び離陸、瀬戸大橋を眼下に八尾空港へ帰還したという作品です。元のタイトルは「ちょっとフライト」ですが、タイトルを「翼をください」に変更して、作品を改作してみようところみたのですが、うまくいきませんでしたので、皆さんにご意見をいただきたくご覧いただいた次第です。よろしくお願いします。



(書記コメント)

小型飛行機に同乗、八尾空港を離陸して、四国山脈を見ながら、高知空港に着陸までの空撮です。

着陸後すぐに帰路の模様替わり、また山のアップ。大橋などを経て八尾空港に無事に着陸して、往復の空路を楽しまれたようです。

8. ある駄菓子屋さん

前田茂夫 7分50秒

(作者コメント)

京阪牧野に古い駅前マーケットがありますが、近くに新しいスーパーマーケットが出来てから客足がとだえてしまいました。しかし、その中で一軒だけ頑張っている駄菓子屋があります。その女店主からいろいろお話を伺いました。



(書記コメント)

時代の波に押されながら頑張っている様子がよく伺えます。時々子供が買いに来る。情景よし。女店主の話に「みんな店がなくなってしまった、しょうがない時代の流れや」と。クイズで貰った大きな兵馬俑の像とともに59年間も店を守ってきた女店主、そして作者を称賛したい気になる作品でした。

9. 大原野の藤袴

高瀬辰雄 7分40秒

(作者コメント)

藤袴は秋の七草のひとつとして、昔から親しまれています。しかし今やこのままではいずれ絶滅する準絶滅危惧種に指定されています。京都では一時絶滅したのではと思われていましたが、大原野で偶然、見つかかり、絶やさないうちという動きが広がっています。今年もフジバカマ園で見事に咲いた花とそれに集まる蝶々やカメラマンの姿を撮影しました。撮りたかった旅する蝶、アサギマダラを撮影できました。



(書記コメント)

保存の努力によって、フジバカマ園が開かれている位見事な景色が凄い。藤袴ってきれいな花ですね。蝶の撮影には苦労されたと思いますが、花とマッチして美しく、撮り甲斐があるようです。大原野神社のあたりは静かで紅葉もきれいで散策にはよいところと思われます。